

平成27年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	海外未送還遺骨情報収集事業			担当部局庁	社会・援護局		作成責任者	
事業開始年度	平成18年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	事業課		望月 文明	
会計区分	一般会計			政策・施策名	Ⅶ-3-2 戦没者遺骨収集帰還事業等を行うことにより、戦没者遺族を慰藉すること			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	厚生労働省設置法第4条第1項第105号 厚生労働省組織令第108条			関係する計画、通知等	-			
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	先の大戦による海外日本人戦没者の遺骨収集帰還等の計画的な実施に資するため、残存する日本人戦没者の遺骨情報を収集することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	南方地域(フィリピン、東部ニューギニア、ビスマーク・ソロモン諸島、インドネシア)及び旧ソ連地域に残存する日本人戦没者等の遺骨の情報について、日本国内及び現地について情報を収集し、遺骨情報に基づいた調査を行う。							
実施方法	委託・請負							
予算額・執行額 (単位:百万円)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	123	130	137	100		
		補正予算	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-		
	計	123	130	137	100		0	
	執行額	101	114	120				
執行率 (%)	82%	88%	88%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	平成27年度は事業実施に係る遺骨情報180件の収集を目標とする。(1回実施あたり20件×9回=180件)	未送還遺骨情報収集事業の実施(海外実地調査)によって収集できた遺骨情報件数	成果実績	件	220	273	213	
		目標値	件	240	244	264	180	
		達成度	%	92%	100%	81%		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
	海外未送還遺骨情報収集事業の実施数	活動実績	回	18	22	23		
		当初見込み	回	15	17	18	9	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込	
	X:予算執行額 Y:活動実績(派遣回数)	単位当たりコスト	千円	5,611	5,182	5,217	11,111	
		計算式	X/Y	101百万円/18回	114万円/22回	120百万円/23回	100百万円/9回	
平成27・28年度予算内訳 (単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	遺骨収集帰還等委託費	100						
	計	100	0					

事業所管部局による点検・改善						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	・未だ海外に残されている戦没者遺骨を本邦へ送還することは、遺族感情はもとより、国民感情としても放置はできないものであり、遺骨収集帰還を促進するための本施策の実施は国民のニーズに応えるものである。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	・遺骨収集帰還の取組は、本来国の責務であり国主体で行われるものである。なお、本事業は国において実施要綱を定め、民間団体へ委託することにより、効果的な情報収集を行うこととしている。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	・遺骨情報を積極的に収集し、早期の遺骨収集帰還につなげる本事業は、遺骨の帰還を待ち望む戦没者遺族を慰藉するために最も効果的な手段である。遺族の高齢化も進んでおり、優先して実施すべき事業である。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	・(企画競争による選定) 海外未送還遺骨情報収集事業は、旧主要戦域の現地事情に精通し、幅広い情報網を有しているとともに、遺骨収集帰還事業等の趣旨を理解し、適切に事業が実施できる団体に委託する必要があるため。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	・コストは、事業実施地域の状況により変動があるが、事業の実施状況及び実績報告書の内容の精査を行っている。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	・事業実施にあたり必要なものだけに限定されている。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		△	・相手国の事情等により、一部について事業実施を延期したため不用が生じている。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		△	・概ね情報収集は行ったが、一部について相手国の事情等により事業実施を延期したため目標を下回っている。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	・事業をより効果的に実施するため、旧主要戦域の現地事情に精通し、幅広い情報網を有するとともに、遺骨収集帰還事業等の趣旨を理解し、適切に事業が実施できる団体に委託して実施することとしている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	・当初見込みを上回る実績がある。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	・本事業によって得られた情報に基づき、政府の遺骨収集帰還派遣団を派遣し、本邦への遺骨の送還を行っている。		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	以下のとおり、遺骨情報の収集→収容→ご遺族への伝達等という一連の取組となっており、役割分担されている。 ①海外未送還遺骨情報収集事業 ↓〔国内外において遺骨の情報を収集する〕 ②遺骨収集帰還関連事業 ↓〔①で得られた情報をもとに遺骨収容を行う〕 ③遺骨伝達等事業 〔②で収容された遺骨について、御遺族への伝達や身元未判明遺骨の千鳥ヶ淵戦没者への納骨を行う。〕		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
	厚生労働省社会・援護局		遺骨収集帰還関連事業			
	厚生労働省社会・援護局		遺骨伝達等事業			
点検結果・改善	点検結果	平成26年度は相手国の事情等により一部事業の実施を延期したが、活動実績を見ると当初見込を上回る実績がある。事業実施地域からは、遺骨収容に結びつく有用な情報が得られている。				
	改善の方向性	事業を延期している一部の地域については、引き続き、相手国の理解を得るための協議を行うとともに、必要な経費を精査し適切な情報収集事業を実施していくこととする。				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	459	平成23年度	417	平成24年度	363	
平成25年度	728	平成26年度	726			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

【平成26年度実績額】

厚生労働省
120百万円

【企画競争・委託】

A 民間団体等(3者)
120百万円

東部ニューギニア、ビスマーク・ソロモン諸島、インドネシア、旧ソ連地域
における海外未送還遺骨情報収集事業の実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位: 百万円)

費目・用途 （「資金の流れ」に おいてブロックご とに最大の金額 が支出されている 者について記載 する。費目と用途 の双方で実情が 分かるように記 載）	A.一般財団法人日本遺族会			E.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	雑役務費	調査員、通訳雇上費	18			
	借料及損料	車両、船舶借り上げ等	16			
	旅費	国内旅費、外国旅費	14			
	消費税	消費税	4			
	消耗品費	コピー用紙代、医薬品代	2			
	賃金	事務補助職員雇上費	2			
	その他	通信運搬費、印刷製本費、会議費	2			
	計		58	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(一財)日本遺族会	東部ニューギニア、ピスマーク・ソロモン諸島における遺骨情報収集事業	58	3	-
2	(株)オスカージャパン	旧ソ連地域における遺骨情報収集事業	42	2	-
3	NPO法人太平洋戦史館	インドネシアにおける遺骨情報収集事業	21	3	-
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					